

沢田城(指定無)(丹波篠山市沢田 334)(小林寺)

【感想】 八上城の北西約3kmに位置し、小林寺の背後をコの字に囲むように郭が配置されている。本丸の南に横堀があり、南東に堀切が見られる。馬場及び城址碑周辺は草が刈られていたが、その他は草木が茂りはっきりしない。

【案内】 小林寺(表記番地)の背後の滝山にあり、小林寺駐車場が利用できる[マップコード 155 882 106*06]。駐車場隅に城址碑が建てられており、鐘楼の門より入り、本堂左の高台の墓地が出羽丸である。寺の背後に本丸があり、城址碑、説明板が建てられている。北東下段に2の丸(藪化している)、南東に馬場があり堀切が見られる。

本丸下段に「玄奘三蔵法師聖骨塔」が祀られている。

【歴史】 天文年間の1540年頃、八上城主波多野秀治の命により、家臣・小林近江守長任が築城した。小林氏は澤田一帯に1100石余を領し、長治・時道・重範と続き、2代長治により小林寺が創建された。天正7年(1579年)明智光秀の丹波侵攻に際し、4代小林平左衛門重範は柏原八幡山で戦死し、澤田城は落城した。

「古城盛衰記」による

城北口バス停から徒歩約8分

立町通をまっすぐ北へ進み、城北の田園地帯に入ると、間もなく右側に独立丘(60メートル)が見える。この上にあった山城が「沢田城」である。

八上城主波多野秀治の武将小林近江守長任が、永禄年間(1558~70)に築いたものという。

遺構は、小林寺の背後から、丁度、鳥が両翼を広げたような形で、東西約150メートルにわたって小山全体が城跡であり、巧みに池や沼、水田なども利用している。頂上に約2000平方メートルの主郭があり、東から西へ五段に区切られている。その東北には一段下って二つの郭があり、上部に城主の居館があったと考えられる。南側には幅1メートル、長さ12メートルほどの土塁が築かれている。東南への尾根に幅約50メートル、長さ約80メートルの二段になっているところは馬場跡と言われ、その先端を堂山といい、「毘沙門堂」がある。

このあたりが、大手(城の表口)で、搦手(城の裏口)は北東の池に向かった付近であった。

八上城を目前にする位置にあり、笹山・飛の山などと共に篠山盆地中央部の防衛拠点であった。

天正7年(1579)5月、時の城主小林修理進(平左衛門)重範は、明智光秀勢の攻撃を受け勇戦し、討死して落城した。(資料から同6年4月の可能性もある)

なお、丹波をあてがわれた亀山(現・亀岡市)城主明智光秀は、天正10年6月、本能寺に信長を討ち、山崎の合戦で敗死したため、亀山城主は於次丸秀勝にかわり、その武将並河飛騨守が八上城代となった(天正10年~同13年12月)。

このころ、沢田城主に渡部大膳綱定という者がおり、反乱を起こし、攻略されたという(「丹波興廃記」ほか)。沢田城として最後の戦いである。

「丹波ささやま五十三次」による



